

# 東京都内公立幼稚園教諭

## 並びに保育所保育母の生活時間について

愛育研究所 平井信義

お茶の水女子大学 小野恵子

- 1 目的
- 2 調査方法
- 3 調査対象
- 4 調査期間
- 5 調査整理方法
- 6 調査結果
- 7 結論

### 1 目的

幼児教育の必要性は最近益々大きくとり上げられ、母親達もこれに関心をもち、熱心になって来たが、実際にこの教育・養育をうける幼児は、これに当る保育者の影響を非常に大きくうけると考えられる。従って、保育者の生活様態がどの様に行われているか、殊に幼児を対象として心身ともに激しい労力があると云われているがどの程度か、その実態を掴んで、保育事業をより充実させ、幼児教育の

向上を計る第一歩として、現在、東京都内で実際に幼児の保育に当たっている区立幼稚園教諭並びに都立保育所保育母の "Time study" を行って、その生活実態を明らかにする様努力した。

尚、幼稚園と保育所は同じ様に幼児を対象としてはいるが、その幼児の階級、年令も可成り異り、仕事の内容も教育と養育と異っている。そこで、この二者の相違が保育者の生活にどの様に及んでいるか、も併せて考究することに努めた。

### 2 調査方法

調査に当り、労働科学研究所社会科学研究室の案になる "生活時間調査表" を参考とし、若干改めた記入用紙と、記入に当っての細かい注意・記入例を印刷し、集会を利用して各人に渡した。従って random sampling ではない。

記入用紙には、所属施設名、氏名、年令、独身・既婚の別、経過年数、特殊仕事の有無、記入月日、天候、健康状態が書かれ、更に

時間は、五分毎の目盛りに区切られ一列六時間、四本で二十四時間一日分とした。

記入の場合の注意としては、

- ①記入期間は四日間だが、日曜、祭日、特別行事のある日を除く。
- ②記入は必ず本人が行う。
- ③記入項目は例を見て出来るだけ具体的に、実状を表わす様に記入する。
- ④記入方法は、自身の生活内容を時間の目盛りの下に書き込むと同時に、その下にとの様な状態でそれを行つたかも知せて記入する。

この時最も大切なことは、例を見て常識的に書くことである。

- ⑤二つの事柄を同時にする場合、例えば事務整理をし乍ら子供を見る時は、「事務整理」「子供を見る」と一緒に書くこと。
- ⑥目盛りの単位は五分なので、五分以内に小さな事柄を幾つも行った場合は、その中の最も大きい事柄を書くこと。
- ⑦特に重い物を持つたり、激しい労働を行った場合は、短時間でもはっきり記入し、念の為に時間も書き入れること。以上である。

### 3 調査対象

対象として、区立幼稚園教諭と都立保育所保育母を選んだ。その理由は、私立施設は非常に様態がまちまちであるので少数例をとることが不可能と思われたし、一方、公立は一種のモデル的存在と考えられたので今年度は研究範囲をこの程度に止めたのである。従つて、対象となつた施設・保育者とその内わけは、左の通りである。両施設の保育者の独身者と既婚者の割合は大差ないが、平均年齢は

30	幼稚園	18	保育所	56	独身	44名	平均年齢	25才6ヵ月
75	教諭	既婚	不明	11名	経験年数	4年3ヵ月		
		不明	既婚	10名	平均年齢	26才0ヵ月		
		不明	不明	2名	経験年数	3年5ヵ月		

幼稚園教諭が保育所保育母より六ヵ月若いに拘らず、経験年数は十ヵ月多い事がわかる。

### 4 調査期間

昭和二十八年六月二日～同年同月二十三日の間で、平日の四日を選んだ。この期間は、入園後生活に慣れて来た時で、しかも行事も少く保育者としては最も平常、且つ楽な時である。

### 5 調査整理方法

①消費時間については

a、各自の四日間の時間を行動別に平均し、個人の一日の平均時間とし、b、更に個人の平均を集め施設毎に平均値を求めた。

②消費エネルギーについては

a、労研の調査によるエネルギー代謝率に従い、各人の行動の種類と、時間から消費エネルギーを算出し、上述と同様の方法で平均値

を求めた。

b、更に単位時間別に消費エネルギーを算出した。

c、施設別に勤務時間中の消費エネルギーの多い者五人、少ない者五人を選出し、それを行動別に時間の割合を比較考察した。

## 6 調査結果

①一日の生活時間の割合と消費エネルギーは次の表の通りである。

時間	(幼稚園)		(保育所)			
	消費エネルギー	単位時間の消費エネルギー	消費エネルギー	単位時間の消費エネルギー		
勤務	9:47	959.4	10:52	1135.9	103	
家庭生活	7:13	790.8	6:0	685.4	111	
睡眠	7:0	806.6	7:8	812.4	(43.8)	
計	24:0	2056.8	103	24:0	2113.7	106

a、一日の活動時間(睡眠時間を除いたもの)は、(幼)十七時間、(保)十六時間五十二分で八分ほど幼稚園教諭が多いが、殆ど大差ない。

b、勤務の時間は、(幼)九時間四十七分、(保)十時間五十二分(保)は一時間余り多い。従って家庭生活時間は逆に、(幼)が一時間余り多いわけである。

c、一日の消費エネルギーは(幼)2056.8Cal(保)2113.7Calで(保)が約57Cal多いが、之は卵(小)約一個から得られるカロリー

に相当する。

d、勤務中の消費エネルギーは(保)が勤務時間も長い為、約1770Cal多い。しかしこの問題は、むしろ体力的なものよりも、精神的な因子を考え合わせる必要がある様に思うが、今回の調査ではそれが不可能であった。

e、勤務時間中の単位時間の消費エネルギーは、(幼)97Cal(保)103Calで、6Calの差が見られる。これは勤務中の仕事内容が両者異なる点より、(保)の方がもう少し多いかと思われたが、この程度に止まった。

f、これに対し、家庭生活に於ける単位時間の消費エネルギーは、両者110Cal、111Calと殆ど近い値が出たのは興味深いことである。

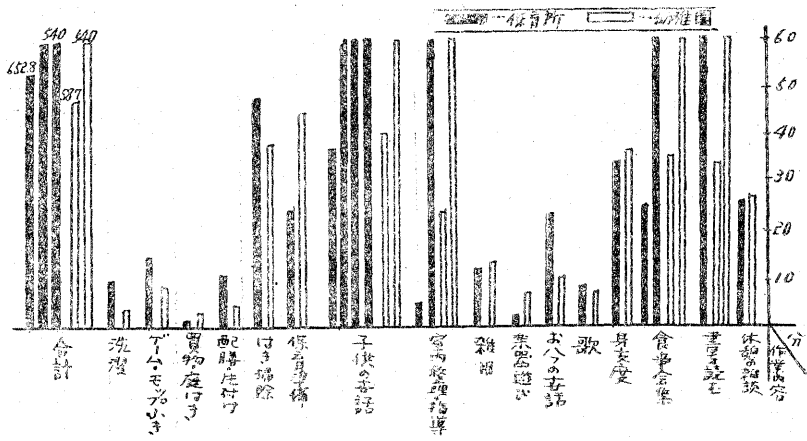
②施設内に於ける作業を、エネルギー代謝率によって分類し、その時間を算出して(幼)と(保)との比較を試みると、次表の様になる。

a、休憩・雑談、身支度等は両者殆ど同じである。

b、書きもの、職員会議、保育打合せ、保育準備等に要する時間は(幼)の方に非常に多く、一・五―二倍にもなっている。

c、(保)では、子供の身の廻りの世話、お八つの世話、はき掃除、洗濯の時間が多く、総て二倍以上である。特に子供の世話が二倍以上になっていることは、注目すべき点である。

d、以上から、両者とも幼児を対象とはしているが、その内容には相当の開きがあり、(保)では幼児の身の廻りの世話に即した面でも多くの時間を費し、(幼)では、教育に即した面が多いと云うこと



作業内容	エネルギー消費率	
	(幼稚園)	(保育所)
休憩・雑談	0.2	27.9
書く・読む	0.3	36.7
食事・合集	0.4	60.5
身支度・乗車(腰掛)	0.5	84.9
歌	0.6	37.1
絵本を見せる・おはなす話	0.7	70.4
楽器遊び	0.8	8.6
アイロン掛け・雑用	0.9	3.3
室内整理・指導	1.0	13.7
子供の世話・ピアノ	1.1	65.4
保育準備・紙芝居	1.2	100.9
はき掃除・乗車(立)	1.3	21.7
配膳・片付け	1.5	44.3
配膳・片付け	1.6	38.6
買い物・庭はき	1.8	47.4
ゲーム・モツア拭	2.0	29.9
スキップ	2.1	1.4
散歩	2.2	14.8
洗濯	2.5	1.4
体操	3.5	2.3
かける	4.5	3.3
その他(労働)	4.5	0.3
計	57.0	1.4
	63.9	1.4

が出来る。

③勤務時間中に消費エネルギーの多い者五人、少い者五人を両施設からそれぞれ選出し、行動別にその消費時間を算出・比較したのが次表である。

a、(幼)では、直接保育に当る時間は大きな差がないが、保育の準備や事務・会合に費す時間は二倍内外の非常な差が認められる。

b、(保)では、直接保育に当る時間、保育準備や事務・会合の時間と、総てに差が認められて、むしろ保育全体が消費時間並びに消費エネルギーの差を作っていると云えよう。しかしその差は大体一・五倍で、(幼)の様に二倍以上の差は見られない。

c、(幼)と(保)では、直接保育に当る時間は断然(保)の方が多いが、保育準備に費す時間は、(保多)と(幼多)(保少)と(幼少)は各々ほぼ同じ時間である。事務・会合に費す時間は直接保育と反対に(幼)が断然多く、(保)の三・五―五倍に及んでいる。食事・手洗い等の保育自身に関する事に要する時間

(単位=分)

		幼多	幼少	保多	保少
直接保育	保育	222	182	286	250
	食事の世話	33	41	94	111
	午睡の世話			55	21
	残留児保育			42	8
	計	255	223	477	390
保育準備	掃除	35	5	55	35
	洗濯・縫物			19	5
	保育室内の整理	71	42	20	22
	ビデオの練習	25	6	11	7
	その他			3	
計	131	53	108	69	
事務関係	事務	139	67	55	37
	職員会議	43	33	8	9
	来客・電話	2	14	6	2
	外出	62	42		7
	研究・講習会	36		11	
計	282	156	80	55	
自身の仕事の時間		52	48	61	53
合計		720	480	726	537

## 7 結 論

以上の事から、幼稚園教諭と保育所保育母の生活実態の調査を行ったのであるが、一般に遊戯的・趣味的な職業と考えられ勝ちな保育者の生活は、平均勤務時間十一時間と世間一般の八時間労働をはるかに上回る相当の重労働である上に、人格の形成期にある幼児を対象としての仕事であるだけに、その心労は可成り激しいものと推定される。更にまた、保育所保育母は直接幼児を保育する時間も長い上に、生活困難した母

は、四グループ共大体近似値が出ている。この事は、身の廻りに必要な最低の時間が、大体この一時間に近い線になる事を示すのではないかと思われる。

d、最後に全体から見て、(幼多)と(保多)とはその差六分で殆ど同じだが、(保少)のは一六〇分(120)、(幼少)のは二四〇分(40)と著しい差が見られる。これは(幼)の方はやり方によって、この程度にまでも消費時間(消費エネルギー)を節約することが出来る、と云う事も考えられるが、一日平均十時間程の勤務時間で、四時間もの差が見られる事は驚くべき事で、この職業が、他の職業には見られぬ弾力性を持つことを顕著に示したものである。

子家庭とも煩雑な接衝を行ったりする仕事も持っている。これらに対する研究は、今後更に継続してゆくつもりだが、今回はその基礎的な調査として生活様態の大略と、消費エネルギーについて行ったものである。